【小学校·中学校·義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度 (評価) A: 十分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である

嬉野市立大野原小中学校 学校名

・学校経営ビジョンに基づく課題について、内容を焦点化 して取り組むことができた。また、各担当の分担の偏りを減らし、校務分掌との相関を意識して進めることができた。一方、成果指標や具体的取組の設定については、どのような状況の実現を目指すのか、どの程度目指すのか等について、曖昧な点や項目によって難易度が大きく違う点等があり、評価内容・方法自体についての改善がさらに必要である。 ・本年度は、コロナ禍にあってこれまでと全く違う状況下での学校運営が強いられたが、学校の組織力、各関係機関との連携を生かして、学校行事や取組について保護者、地域の理解を得ながら進めることができ、評価結果にも反映された。 ・次年度、さらに評価の精度を上げて、学校運営の改善を図り、教育水準の向上を果たしていく。 前年度 評価結果の概要

学校教育目標

①ICT(タブレット)を活用した学習活動の充実、及び、新聞等も活用し、普段の授業の中で「自分の考えを説明する場」「学び合い活動」を設定することで、主体的・対話的で深い学びの実現を図る。 ②地域愛に満ちた豊かな人間性や社会性を育てるために、地域の人材を積極的に活用したカリキュラムマネジメントを行う。 本年度の重点目標

重点取組内容・成果	指標		中間評価			5 最終評価				
共通評価項目 重点取組			中間評価			最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	取組内容	成果指標	具体的取組	進捗度	進捗状況と見通し	達成度	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	(教権目標) ●学力向上対策評価シートに示したマイ ブランの成果指標を達成した教師90% 以上		(評価) B	・「マイブランを意識した学力向上対策ができてい る」と回答した教養員は78.3%であり、十分遺産 とは言えない、後学期始めにマイブランの選挙状況 を確認し、マイブランの成果指標を上げる。	(評価) B	・「マイブランを意識した学力向上対策ができてい る」と回答した教職員は83.3%で、中間評価の 78.3%より上回ったものの、十分達成とは言えない。 ・マイブランの選接状況を月ごとの小・中部会など て報告する時間を確保するなど、意識つけが必要で あた	В	・これからも、より個々の児童生徒の特性 に応じて、個別最適な学習ができるよう取 り組んでほしい。 ・県学習状況調査でもよい結果を出しており、基礎学力は定着しているものと考え ス	・学力向上対策コーデネーター
	○授業でのICT機器及び新聞利活用	レゼンテーション等で表現できた」と回答した児童生徒90%以上 〇新聞記事等を活用した授業の中で、 「自分の考えを説明する場が持てた」	・タブレットを積極的に活用した投棄実 説、及び、最低3か月に1度のプレゼン テーションの実施 ・「投業づくりのステップ 1・2・3」 を踏まえ、「自分の考えを説明する場」 「学び合い活動」を取り入れた授業及び NIE活動の実践	A	・ 行復集等でタブレットを活用している」と回答し、 形態を建設は199%を超えたっちて、職員の割合が 約77%と低い。すべての職員での活用率を上げて いうたい。 ・ 「何夕の考えを説明する場、、「学びあい活動」 または「NIES語》を取り入れた授業では生徒的 90%、職員は約80%で、今後さらに意識的に授業 に組み込んでいきたい。	A	・ 物理の中でラブレットを活用している」と回答 に光度生実は1971,1967 あり、9.23%の保護や 子根たちが家庭で、そのことについて会話したこと があると回答した。 ・タブレットを積極的に活用した授業実践ができて おり、加えて、6分の今まと説明する場。 では児童生徒の約96%、職員は約83%で有定的な 評価をしており、児童生徒の数値目標を進度でき	A	・世の中はITが必須の時代であるため、学 校が様々な場面でタブレット等を活用する ことは大変良いこと。これからも積極的に 取り入れていってもらいたい。 ・自主的にできている児童生徒が多数であ るが、できていない児童生徒にどうやって 興味を持たせ学ばせるかが課題と思われ る。	ネーター及び研究主任
●心の教育	●別豊生徒が、自他の生命を募重する 必能者への思いやりや社会性、倫理観 かと正義感、感動する心など、豊かな心を 身に付ける教育活動		 年間計画及び発達段階を考慮した道徳 投業の確実な履行 ・平和集会や人権集会の実施 ・保護者や地域、他校と連携した交流・ 体験活動の実施 	A	・通振、集会・体験活動に関するアンケートについ て肯定的な回答をした児童主徒94%、教職員9 2 %で目標を十分に達成している。 ・保護者の「学校が児童主徒に思いやりの心や豊か ななと背お指導をしていること」に肯定的な回答が 91%で十分達成である。	A	・道徳、栗会、体験活動に関するアンケートについ て、肯定的な回答をした児童生徒95%、教職員 92%で、十分に達成している。 ・道徳、栗会など学校生活全体を通して、子供たち に思いやりの心豊かななど野むよう指導している と回答した保護者94%で、十分達成である。	A	・大野原の子どもたちは、とても心豊かに 育っていると思う。先生方の取り組みに感 謝したい。	·道德教育担当教員 ·人權·同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充 実	●「いじめ予防・防止のための研修・会 議、組織的対応ができている」と回答し た教養90%以上		A	・「いめ防止、超知等について、研修等を重し共 通理等と、組織的な対応ができている。」と目答 した教員が93%で十分達成である。 「児童生徒のアンケート「発生あのね」をも適し で超近できているは、83%だった。児童生徒が悩 みを消化をしまれていない可能とあり、今後も教 顕真で連携し早期対応を図っていく。	A	・いじめ防止、提助・策加等について組織的が対応 がするべると日常した教員の93.5%でから収 である。今後も小中間わず、教員が共通理解をし、 組織的な対応を行いたい。 ・児童生徒アンケート「先生あのね」等を選して相 就ですべいるは86.0%であった。アンケートに 数でするいるは86.0%であった。アンケートに 数がある時は担任が話を聞き、職員で共通理解を図 り、早期解決を図っている。	A	・いじめもなく、安全に学校生活が送れる 環境は、とても素晴らしいと思う。 ・人数が少なく、他地区との子供たちとの 交流経験がほとんどないので、特に下学年 の児童は、新しい仲間との交流に言葉がけ の面で行き違いがあるかもしれないが、先 生たちのサポートで上手くいくようにフォ ローをお願いしたい。	- 生徒指導 - 教育相談 - 各学年担任
		○「様々な学校行事に主体的または積極 的に取り組めた」と回答した児童生徒9 0%以上		В	・「声すなろ会」や学校行事等で、「主体的に活動できた」と言えた思生性が858分とやや下回へいたので、低学年の児童も自分の考えを積極的に発言できるような手立てを考えていきたい。	В	・「生体的に活動できた」と答えた児童生材は 520所でル、児童生徒(上学)は、司会連行や 意見整えなどでき体的に参加してきたと目等した。 が、下学年児童が550と大きく下回っていた。 学年の児童が生体的に参加できるような手立てを考 える必要がある。	В	・下学年の児童たちは、多くの人たちの前 、陽じたことを述べるのはまだ難しいか もしれません。しかし、上級生の様子を見 ているので、後々意見等は堂々と言えるよ うになるはずです。先生方のサポートを引 き続きお願いしたい。	- 児童生徒会
	○夢や目標に向かい自ら進んで努力する 児童生徒の育成	②多を持ち、多の実現に向け、「具体的 目標を決めて努力している」と回答した 児童生徒♀0%以上。	・学習や行事、体験活動や異学年交流 で、自らの夢や目標に結び付いた振り返 り活動の充実 ・キャリアパスポートを有効活用し、将 未を見据えた、望ましい職業観・勤労観 を目むキャリア教育の推進。	В	- 夢り日標の実現に向けて努力している児童生徒が 8 796とやや下回っていた。名様体験活動ナネ キリアバスボート等を活用しながら、見通しと学びの 振り返りの場を多く設定していきたい。	A	・夢や目標の実際に向けて努力している児童生態 が、前回よりがポイント上が194%となり、十分違 成ですている。今年度辛菓予定の中学生も卒業後の 選路決定ができた。 ・行事等の振り返りとしてキャリアパスポートをそ の報度活用することで、行事を適して身代付いた とや学んだことを、今後の自分の生活にどのように 生かしていくかを考えるきっかけとなった。	A	・将来の夢や目標を持っている児童生徒が 多いのには感心した。とても素晴らしい。 ・子供たちにとっての勉強や部活、大人たちにとっての仕事など、分野は人それぞれ 違うと思いますが、誰もが目標を立てて努力 何張る)することは、人間として大事 な基本だと思います。子供たちの夢が少し でも叶うように、応援していきたい。	
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	●「早寝早起き朝ご飯」、「食後の歯磨き」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上 ●う歯がある児童生徒の歯科受診者90%以上	・発達段階に応じて、生活習慣について の自己評価(チェックカード等)の実施 保健だよりの発行 ・保護者への個別の連絡 ・歯科保健、プラッシング指導の実施	В	- 児童生徒の中には「食飲がない」理由で、朝食を 飲いているのもいる。家庭と協力し、朝ごはんの大 切さを秘り強く指導していきたい。 ・ 歯科受診率は67%であり、保護者に協力を求め ていきたい。	В	規則正しい生活ができていると回答した児童主義は、 88.5%であった時に、長期後車の単級き、及は あみらすが習慣化していない、保健教育等で、基本的生 活習慣、最かがらの大切さを教え、家庭とも協力して改 番と回っていきたい。 う歯の治療率は67%であった。保護者へ治療の提助 生観け、	В	・家庭の事は保護者さんのサポートの力が 大きいと思うので、保護者さんの協力の方 が必要だと思う。	- 養護助教諭
	○安全に関する資質・能力の育成	○通学途中での、事故・事件 0% ○学校生活でのけがによる保健室利用前 年度比50%	- 蟄校班への日常的な指導の徹底 ・災害被害防止のための組織的対応の充 実	В	- 通学中の事故、事件は〇件だった。しかし、途中 で走り、程気とした鬼童もいた。 ・ 保健室を心の原相所としている児童もいる状況も あり、保健室の利用は前年度より増えている。	В	・宣牧が遅れがちな知については、時間に余裕をむって 安全に登牧されかは、最初をと、出発時間を与せ た。通学途中での事故・毎件は〇がてあった。 ・保健室側間は、毎年度比らの記さてには至らなかった。 が、怪我はよる利用率は0.5%減少した。少報や集会等 て、災害被害防止のための児童生徒への教育と、職員 間での組織的対応のさらなるた実を図っていきたい。	В	・登下校時のあり方も含め、今後も安全面 は常に気をつけてほしいと思う。	· 安全教育 · 教頭
●業務改善・数職員の働き 方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の 削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等 時間の上限(1箇月について45時間、1 年について360時間)を遵守		A	・「定時運動日の推進、毎活動等の外部指導員の登 用を行いながら、時間外動物の削減ができている」 と回答した職員は88.3%であり、十分達成であ る。	A	・「全職員で業務効率化を意識し、第1月曜日及び 第2~第本7曜日の定時運動日連守を指進した。ま た、卓球部にも所添勤指導員を負用で、時間外勤 務の削減ができた。アンケート結果は、前回調査よ リ下がってはいるが、80%は超えており、十分達 成である。	A	・部活動指導員の先生を、両部活とも配置 していただいてよかったと思う。先生方 は、常にお忙しいと思います。時代に合っ た取組を行っていただき、子供達と向き合 う時間を増やして欲しいと思う。	- 教頭
	○自分廳きのための時間確保	○仕事と余暇や趣味とのパランスがとれていると感じている職員 9 0 %以上	 互助会報及び健康づくり情報誌スマイル「セルフケア編」の周知徹底及びラインケア編の活用促進 	В	・情報読入マイル・セルフケア艦)を参考しなが 5、仕事と余暇や趣味とのバランスを意識している 教職員は88.3%であった。仕事に優无順位を付け させ、勤務時間を意識し、めりはりを付けて業務遂 行できる職場環境を作り、90%以上を目指す。	В	・仕事と余暇や廃床とのバランスを意識できている 教職員は、前回調査から最分か下がり、85.0%で あった。管理版として、会議時間のあり方など、よ り動務時間を意識し、教職員がめりはりを付けて業 務接行でき、必身共に充実した職場環境になるよう 努力していきたい。	В	・先生方の心身の健康があってこそ、子供 たちにとっても素晴らしい教育ができると 思います。仕事と余暇のバランスをきちん ととっていただき、大野原の子供たちのた めに尽くしていただきたい。	- 教頭
本年度重点的に取り組む独自評価項目 重点取組		中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者		
評価項目	重点取組内容	成果指標(數值目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	7-9153-8
〇家庭・地域との連携	○カリキュラムマネジメントを生か したコミュニティースクール	○「学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒を育んでいる」と感じる教職員・保護者90%以上	・大野原高原学園広報活動の拡充と地域 住民との協力による受け入れ態勢の充実 ・バイオリン等を使った教育の総合的な 学習への組み込み	A	・「学校、家庭・地域が三位一体となって児童生徒 を育んでいる」と思じる教職員は91.7%、保護者 は98.1%で十分達成である。	A	・「学校・家庭・地域が三位一体となって児童生徒 を育んでいる」と感じる教園園は写5.0%(養護者 は98.5%で「分遺蔵である。 ・パイオリン等を使った教育の「総合的な学習の高原」への組み込み、その時間に新用し、大野の高原 の歌詞を児童生徒が制作、パイオリン演奏を果たした。	A	・今年度もコロナ禍という厳しい環境において、様々な行事を実施できたことは、学校側に感謝したい。 ・大野原の子供たちのことを想い、岩永先生が今年作曲されたバイオリン曲「心の故媚」に子供たちが作詞をしたのはとても環時らしかった。いついつまでも彼らの心に刻まれていくことだと思う。	
〇特別支援教育の充実	○教師の専門性と特別支援教育意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向 上した教師90%以上	・特別支援教育研修会への積極的参加と 校内研修の充実	A	・講師を招聘しての年間5回の校内研修の3回を実施した。「校内研修を実施し、学校全体として、特別支援教育の完全化が図れている」と感じる教護員は96.4%で十分達成である。		・講師を招聘しての校内研修5回実施した。 ・特別支援学場の授業研、授業研究会 回実施し た。 ・ 校内研修を実施し、学校全体として、特別支援 教育の充実化が倒れている」と回答した教職員は 93.3%であった。	A	・常に先生方も研修されていることは、子供たちにとってもとてもいいことだと思う。	・特別支援教育コーデ ネーター
	白 の…士士主人工会会	-	I .				-			